

豊岡駅分会は、兵庫東北部の山陰本線梁瀬駅〜居組駅

ロマンは実を結ぶ

福知山地方本部 豊岡駅分会

No.380

間、播但線京口駅〜和田山駅間を合わせた34駅、15.2.6kmを管理しており、管理駅長や出向者を除いた69名の組合員が日々輸送サービスを提供や、地域との窓口として業務に奮闘しています。兵庫東北部の但馬地方は近畿でも有数の豪雪地帯として知られており、今冬は山陰本線および播但線の区間で延べ7日間の計画運休を実施し、近畿統括本部からの支援メンバーも加えて昼間のみならず深夜から早朝にかけても駅構内の線路やホームの除雪に力を合わせました。

組合員に寄り添いJR西労組運動を継承する

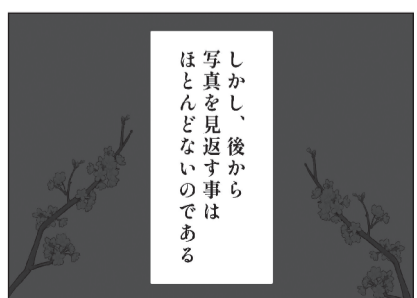
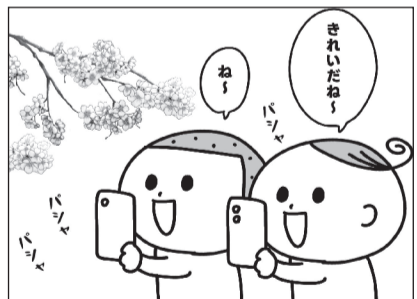
いつ止むのかわからないような雪が降り続け、多数の除雪列車や排雪のためのモーターカーが行き交う中で、声を掛け合って除雪作業に努め、また、時には回送列車の前面に乗り込んで駅に停止するたびに厚い壁のように積みあがった圧雪を取り除くなどの作業に努め、結果、一人の怪我人も出さず、一人の安全に作業を終えることができたことは私たちの大きな自信につながりました。

組合の面では、日頃の課題を話し合ったり要望を取りまとめたりする機会をなかなか設けることができず、組織運営に苦心しています。分会のエリアが広範囲にわたっており、一ヶ所に集まっての執行委員会や職場集会の開催が難しいことも理由として挙げられます。その中でも、仕事と育児の両立に関する課題解決を目指して親子連れで参加できる意見交換会を開催するなど、組合員が顔を合わせて、意見の交換や会社への提言ができる機会が持



仕事と育児両立支援としての親子で参加の意見交換会

それいけ！ はりまくん おぼたみゆき



各地本・総支部から約80名の青年女性組合員が集結した



中央本部青年女性委員会は引き続き、10代・20代の今しかできない経験と機会の創出を大切に、JR西労組に集う仲間との交流や、共に支え合える仲間の輪をより広げる活動を展開していく。

中央本部青年女性委員会 「第8回交流レクリエーション」

各地から仲間が集い 地域を超えた交流を深める

JR西労組中央本部青年女性委員会は、3月28日(土)、大阪市内で「第8回交流レクリエーション」を開催し、各地本総支部から約80名の青年女性組合員が集結した。冒頭、高杉青年女性委員長は、今回のレクリエーションの目的と、青年女性委員会活動の重要性に触れ、「西日本エリア全体に仲間がいることが集結した。長は、今回のレクリエーションの目的と、青年女性委員会活動の重要性に触れ、「西日本エリア全体に仲間がいるこ

とを再認識し、公私ともに支え合える仲間の輪を、中央本部青年女性委員会からつづけていく」と挨拶を行った。今回の交流レクリエーションは「スイーツバトルロワイヤル」と題し、班ごとに分かれて、実行委員会が企画した多彩なゲームが各ブースで行われた。各班のメンバーが協力しな



代表して、羽野中央闘争委員長が要求書を提出して以降、5回にわたる団体交渉の経過、直近のJR西日本の経営状況と社会情勢について挨拶を行った。各地本総支部の代表者は、この間に開催してきた委員会や代表者会議での、26春闘に対する組合員の期待と切実な声を訴えた。中央闘争委員会と各地本・総支部の代表者は、組合員とその家族の負託に応えるため、最後の最後まで26春闘を闘い抜くことを確認した。

第4回地本代表者会議 26春闘ヤマ場を迎え 意思統一を図る

2026春季生活闘争妥結にあたっての中央闘争委員会見解

中央闘争委員会は、3月17日に2026春季生活闘争の最終交渉に臨み、年度初の基準昇給の完全実施、ベースアップ10,000円(シニア層含む)、契約社員の時給65円引上げを獲得した。年間臨給は、中期経営計画2025の達成見込み0.04箇月を反映した5.42箇月(夏季2.77、年末2.65)、シニア層には夏季精勤手当+2万円、契約社員には夏季精勤手当+1万円を引き出した。また、旧福知山支社及び旧和歌山支社のエリア手当を10%へ引き上げ、金沢支社及び中国統括本部のエリア手当を5%へ引き上げた。さらに、副看護師長及び二級建築士手当の新設、指令員手当の増額、通勤手当(車通勤)の55km以上区分の新設などが実現した。加えて、別居手当「家族の介護のための別居」を追加、不妊治療支援休職者・キャリア開発休職者に対する支援、帰省等交通費の改善など、組合員の切実な声に応える回答を引き出した。この回答は、今日まで私たちが訴え続けてきた「人財への投資」が会社の成長投資であることや、一人でも困っている組合員に手を差し伸べる会社の姿勢を示したものであると判断し、本日妥結した。JR西日本の経営状況は、2月3日に公表された2025年度第3四半期決算では、まちづくりプロジェクトの開業効果、大阪・関西万博による増収、さらに閉幕後もご利用が堅調に推移したことにより、営業収益は前年同期比106.4%の8,007億円、営業利益は同106.9%の1,469億円となり、5期連続の増収増益であり、全利益項目で過去最高を更新し、中期経営計画2025の目標を達成できる見通しである。2026春季生活闘争は、2025春季生活闘争で勝ち取ったベースアップを基盤に「人財への投資」を成長投資と位置付け、「今年も賃上げ人財への投資を！」をキャッチフレーズに掲げ、月例賃金にこだわった持続的な賃上げの実現をめざし交渉を重ねてきた。私たちの要求は、基準昇給の年度初実施、物価上昇・他産業との賃金格差是正を図るべくベースアップ16,000円、年間臨給5.7箇月、エリア手当の見直し、各種手当の改善を柱に組合員の切実な声を訴えてきた。あわせて職場の疲弊感解消や責任度の高い職務、敬遠されがちな業務、深夜帯の業務、組織見直しで顕在化した課題など、現場が抱える“しんどさ”に向き合い、それに報いる仕組みの必要性や、グループ会社を含めた処遇改善の重要性も強く求めてきた。こうした私たちの強い訴えに対して、会社は「次年度以降は万博効果の喪失に加え、インフレや北陸新幹線の固定資産減免措置の終了に伴う線路使用料の増加、設備投資増に伴う減価償却費の増加等により経営